

地名探訪

昭和60年（1985）6月15日設立総会開催。「藤沢地名の会」が誕生。そして、同年8月25日第一回地名探訪「大庭城址を中心として」が日本地名研究所と共催、藤沢市の後援で実施されました。あれから30年！

平成27年（2015）3月14日地名探訪「辻堂の古道・史跡散歩」を実施しました。参加者64名。この地名探訪は丁度90回目となり、この間の参加者人員は延べ4634名（平均52名）でした。この間何度か悪天候により中止あるいは延期したこともありましたが、毎回多くの会員、また、「広報ふじさわ」その他のタウン誌等をご覧になり参加される方々も多く、関心の高さがうかがわれます。因みに今年（2015）6月20日に実施した地名探訪は「古代から現代へ 大庭の移り変わりを訪ねる」と題して第一回地名探訪の地へ戻って参りました。参加者は49名でした。

小生平成11年9月末リタイア。健康のため、何かしければと考えていた時、目にしたのが「広報ふじさわ」の地名探訪の記事「大庭城とその周辺を歩く～地名と史跡を訪ねて～」でした。早速担当者の方に電話で申し込み、初めて地名探訪に参加。これが「藤沢地名の会」との出会いでした。その後平成14年（2002）より運営委員の一人として会の運営に携わっております。初めて担当した地名探訪ではマイペースで歩いてしまい、「先頭！歩き方が早いぞ！」と注意されたり、説明を要する場所でグループ全員が揃う前に説明を始めてしまう失敗もありました。時には想定外の質問があり、回答に窮する事もあり、自分自身の勉強不足を痛感させられました。しかし、全員が相互に足りない点を補いながら探訪を続けられた事は大変良かったと感謝しております。

（小瀬川 雅彦）

地名探訪のご案内
— 藤沢地名の会・第2回例会 —

大庭城址を中心として・・・

成就院→大庭神社→天神橋→大庭城址（昼食）→
舟地蔵→台谷稲荷→熊野神社→泉賢院（解散）

全行程 約5km

- 日 時 8月25日（日） 9時30分
小田急線善行駅西口バス停前集合（雨天中止）
- 案 内 湯山 孝氏（郷土史家・藤沢地名の会会員）
久保尚雄氏（藤沢地名の会会員）
- 昼食・飲物 各自持参
- 交 通 費 各自負担・善行駅から善行団地までバスを利用
- 参 加 費 無料（ただし 資料代100円）
- 服 装 帽子・歩きやすい服装（防曇・防虫に注意）
- 解 散 15時頃 泉賢院（藤沢・辻堂方面へのバス便あり）

● 問い合わせ先
久保 尚雄 藤沢市藤沢3745-5 TEL 0466-81-2901
（電話は午後9時までにお願ひします）
藤沢市役所市民相談課市民文化担当 TEL 0466-25-1111
（内）232

主催：藤沢地名の会・日本地名研究所 / 後援：藤沢市

第1回地名探訪「大庭城址を中心として」チラシ

地誌輪読会

地誌輪読会が始まったのが平成14年(2002)9月である。この輪読会が始まるきっかけは7年にわたって行われていた事業の「藤沢を語るつどい」が終わりに近づき、次の分科会に何をするかとの議論から地誌輪読会が立ち上がったことだというあった。テキストは徳川幕府の官撰地誌で、天保12年(1841)に完成した『新編相模国風土記稿』であった。平成17年8月までの満3年、33回の輪読会で藤沢市域まで読破したのであった。その後もこの風土記の輪読会は継続し、毎月第一日曜日の午前は風土記、午後は皇国地誌を、平成21年より午前は『わが住む里』、平成22年9月より『藤沢沿革考』、平成24年4月より『わが住む村』、平成25年12月より『旅人がみた藤沢』を、午後は風土記を輪読し、平成26年12月より午後は風土記が終了し、『鎌倉大草子』の輪読に入った。

毎月第一日曜日に湘南台公民館研修室を中心に会場を確保しているが、シーズンによってうまく確保できない場合がある。また使用している教材も藤沢を中心とした内容の教材を選定しているが、今後手頃な内容の教材が確保できるかが課題である。

(広田 和夫)

群書類従巻第三百八十二

合戦部十四

鎌倉大草紙

「承和五年己未三月三日改元。康暦元年に移る。美濃國土岐大膳大夫嶋田が讒言にて御退治あり。國々の御勢をめざる間。關東よりは此時之管領上杉憲春の令弟憲方入道道合を大將にて五百餘騎。御旗を給り出勢す。此時京都の動關に付而内々す。め申入ありけるにや。鎌倉殿思召たつ事有。已に憲春に御評定あり。上杉大にどろき諫奉るといへども御承引なし。思召定められたる御返答を承り。上杉いさめ兼て我館山の内へかへりて内室を近づけ。思ひ立事あり。尼になりて玉はりてんやとの給へ

ば。女房けしからぬ所望かなとうち案じける。わがあとこながら賢者第一の人なり。惡ざまの事有ともいかで背べきと思ひ。安き御望に候とて則髪を切て衣を仕立などしけるをみて憲春うちわらひ。無殊の所望申つるなり。後に思召合給へとて立給ひしが。氏満公へ御謀反叶まじきよしを再三自筆に告をき。持佛堂へ入て則腹切たまひける。法名道珍と號す。鎌倉殿大にどろき給ひ。忽に京都の公方將軍の御望をやめられ。御後悔ありて同卯月晦日に三嶋まで打立ける。上杉安房入道道合に管領を被仰付。是は去三月十日に發向しけるを

巻第三百八十二

鎌倉大草紙

六百五十九

巻第三百八十二

鎌倉大草紙

六百六十

三嶋に滞留ありて領狀を申上ける也。扱京都には美濃國の土岐も没落して公方の思召まゝに成行。又關東氏満御道心ありて。上杉申留めん爲自告のよし風説ありし程に。角ては叶まじとて。鎌倉氏満公京都に對し申て野心を不存よし自筆の告文を寄て。瑞泉寺の古天和尙を使僧として京都へ進ぜらる。此和尙夢想の末弟子にて京公方御崇敬之僧也。和尙の申され様もさる事なれば。京公方御納得ありて。同五月二日公方自筆にて御返事に子細なきよし被仰下。問。關東諸家安堵のあもひをなしける。同日京都にて斯波治部大輔義將に管領職を被仰付。云々。

「康暦二年庚申五月五日下野住人小山左馬助義政。吉野宮方と號し逆心しければ。宇都宮基綱大將にて爲退治。發向ありて。震原といふ所にて及合戦。同十六日宇都宮打負忽に討死しける間。小山は關東の御下知を背て。利陳尉の言迄もなし。謀反の寂なりとて。鎌倉殿より御退治あるべし。但京都の御加勢を頼不申。後難如何有べき由上杉道合申により。梶原美作守道景御使として康暦三年辛酉上洛。則白旗一擡御加勢合力を申請て歸國。同三年二月廿四日改元。永徳と改。六月十五日鎌倉右兵衛尉氏満。小山義政。御退治に關東十二ヶ國の軍勢を引率して御發向。先手の大將上杉安房入道道合。同中務禪助。木戸將監範季等也。武衛は武州之府中の高安寺に御陣座。御先手は上杉憲方爲大將。小山へ馳向ひ責寄ける。小山不叶して九月十九日降參可仕由申入間。御免あるべきよし被仰下。しかれども小山如何思ひけん。府中の御陣不參。空して年暮て明年の二月又木戸將監範季。上杉中務禪助を大將として。十二ヶ國の御勢を向して小山が營の城を

地名講演会

現在年2回実施している講演会は市の委託料により、講師の先生への謝礼から、交通費・案内チラシやレジメ資料作成、講師との連絡通信費及び会員への通信費まで、一切合財を委託料の中でまかなっています。こうした中で専門家の方々、知名度の高い先生方が地名の会趣旨理解していただき、講演を応諾してくださった先生方に感謝申し上げます。

ここ10年間における主な内容をみると

信仰・宗教関係では

「一遍上人 熊野への道」	遊行寺宝物館学芸員	遠山元浩氏
「檀家制度の成立について」	明治大学名誉教授	圭室文雄氏

民俗関係では

「江の島の民話―地名と伝承―」	日本民俗学会会員	糸 智子氏
「こころの中の地名―ほとけの買い物の行き先」	大磯町郷土資料館長	佐川和裕氏

中世史関係では

「三浦義村と中世国家」	青山学院大学講師	真鍋淳哉氏
「中世太平洋海運の展開と港町の形成」	品川区立歴史館副館長	柘植信行氏

近世の東海道関連では

「幕末維新期の騒乱と東海道」	東海大学准教授	馬場弘臣氏
「朝鮮通信使 藤沢宿を行く」	東海大学准教授	馬場弘臣氏

近現代関係では

「占領下の神奈川県あれこれ」	横浜市史資料室専門員	羽田博昭氏
「グリーンハウスと旧藤沢カントリー倶楽部」	善行雑学大学代表	宮田英夫氏

「昭和期の鎌倉郡・高座郡」	横浜開港資料館調査研究員	松本洋幸氏
---------------	--------------	-------

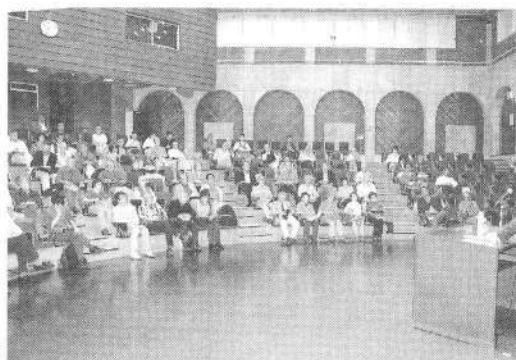
この他「石仏と地名」、「駅名と地名」、「藤沢周辺の地形」、「変わりゆく湘南の自然」等があった。

会場については本事業が共催であることから、市の方で確保していただいていた。平成22年度までは市役所新館7階大会議室であったが、平成23年度より労働会館1階ホールで実施されるようになった。しかしこの労働会館も今年度限りでリニューアルされることとなり、会場をどこにするかが頭痛のタネである。

(鈴木 富雄)



平成11年度講演会（市役所7F）



平成27年度講演会（労働会館）

会員研究発表会

この会員研究発表会は会員自身が自分の研究成果を発表できる場として年1回の機会ですが、30年間の長きにわたり継続されてきたことは大変評価されるものと思います。

ここ十年の傾向を見てみると、二度発表されている会員が三名いらっしゃることである。

萩原会員（平成19年度：サムエル・コッキングの手記、平成23年度：若尾山から消えた銅像）、小瀬川会員（平成20年度：吾妻鏡に天変地異・異常現象を読む、平成26年度：つれづれの地名）、山下会員（平成21年度：藤沢の道祖神を訪ね歩く、平成23年度：近世『漂泊の木食遊行僧』徳本上人・木食観正上人・唯念行者の足跡を訪ねて）である。

また江の島に関連した発表が3件あり、平成19年度：サムエル・コッキングの手記（萩原会員）、江の島と浦島伝説（中村会員）、平成22年度：富士山と江の島との繋がり（出張会員）である。

人物を扱った発表には、平成18年度：サムエル・コッキングの手記（萩原会員）、平成23

年度：近世『漂泊の木食遊行僧』徳本上人・木食観正上人・唯念行者の足跡を訪ねて（山下会員）、平成25年度：イサム・ノグチとその周辺（長嶺会員）、平成26年度：宝治合戦とその後の三浦氏（小池会員）がある。

石仏関係では、平成21年度：藤沢の道祖神を訪ね歩く（山下会員）、平成24年度：藤沢の庚申塔（鷹取会員）がある。

以上幅広い分野での発表があり、今後も積極的な発表への参加が望まれる。

（鈴木 富雄）



平成7年度会員研究発表会（市役所7F）



平成26年度会員研究発表会（総合図書館ホール）

地名の会会報

いま、改めて創刊号から第89号までの経過を見てみますと、紙面のサイズでは創刊の昭和60年9月15日から第26号まではB5判でしたが、高齢者対策とともに読みやすい誌面にするために行間を広げ、写真掲載も増やせるようにと第27号からはA4判に変えました。

印刷に関しては、創刊号から一時印刷会社に版下製作を依頼し、市民活動課（自治推進課）から教育委員会生涯学習課に移管されてから市のほうで印刷していたが、その変更を求められ、民間の印刷会社へと移行し、写真の網焼きや用紙の購入等の煩雑さがなくなりました。

次に誌面では、会の例会での講演要旨や研究発表要旨をメインとして掲載しております。これは例会に欠席された会員に、講演会・研究発表会等を周知していただくこともあります。会員の中には、この会報を楽しみにして自分も参加したという気分になれることもり、会の動きが認識でき、情報の提供の場であると考えます。会報で欠如している部分、会員投稿や事業予定等の詳細は「ミニだより」に委ねています。

また当ホームページでは平成24年度より会報のバックナンバーをpdfファイルの形で復元して、会員向けに順次公開して参りました。今回創立30周年を迎えるにあたり、創刊号～最新号（第89号）まで全てのページをスキャニングして復刻し、pdf形式のデータベースとして、CD復刻版を作製し、長谷川会員をキャップとして会員に頒布すべく作業しております。

（鈴木 富雄）



活動の記録

「藤沢の地名」を読み訪ねる会（第2回）

当藤沢地名の会の原点ともいえる「藤沢の地名」を読んでいただく手助けになればと、読んだ地域を実際に歩くという企画「藤沢の地名」を読み訪ねる会は約4年間で、平成21年2月をもって全地域を読み歩いて一応終了いたしました。

しかし最近入会された方、途中から参加された方々もいらっしゃいますので、引き続き「藤沢の地名」に記載されている地名がどう残されているかを平成21年5月より実査し始めた。

この読み訪ねる会も平井さんをキャップとして継続してきたが平成25年3月をもって全地域を読み歩いて終了しました。

（鈴木 富雄）



第1回の読み訪ねる会の学習風景（市職員会館）

活動の記録

新しい事業「さがみ探訪」

従来当会の事業として、講演会、地名探訪、「藤沢の地名」を読み訪ねる会、映画会、地誌輪読会、古文書部会、特別企画等の事業を実施してきました。このうち「藤沢の地名」を読み訪ねる会については、「藤沢の地名」をテキストとし、現地を訪ねる等の活動を実施してきました。こうした活動も回を重ねるごとに地名活動を市内のみのフィールドだけでなく、周辺地域の歴史、風土、民俗などとの関連にも広げようとのことで、読み訪ねる会を「さがみ探訪」として衣替えをしました。手始めに「古道を訪ねる」を平成25年9月より実施しました。平成27年9月現在で22回目を迎えました。

（鈴木 富雄）



大山道を歩く（田村の渡し場跡）

古文書部会の活動

古文書部会の発足は、27年前の1988（昭和63）年7月と記録されています。その後、部会の活動は順調に発展し、現在も27名の会員が毎月第3木曜日に輪読会を開いています。これまでに輪読した古文書の解説時期とその概要を紹介します。

①藤沢山日鑑 安政二年正月～十二月 ～2002年解説

遊行寺の五七代遊行上人の日記です。上人の許へ毎日訪れてくる沢山の人々が記されています。1855（安政二）年は疱瘡の流行や大地震の被害があり、社会の生の情報が直接伝わってきます。

②遊行日鑑 文久二年四月～八月 2003年～2007年解説

1862（文久二）年三月、五八代遊行上人の相続がありました。そのことを幕府に届け出て遊行に必要な伝馬朱印状を受けるために、上人は江戸に出府します。藤沢・神奈川・品川・浅草を経て、江戸城にて御朱印状を頂戴し、さらに白金・板橋・大宮・鴻巣・持田・館林と続く遊行の旅の記録です。

③吾妻路之記 2007年～2009年解説

儒学者の貝原益軒（1630～1714）が著した旅行記です。東海道の登り下りの名所旧跡が描かれています。

④東海木曾両道中懷寶圖鑑 2007年～2009年解説

上記の旅行記と併せて読みました。これは、旅人が懷にいて歩いたガイドブックです。

⑤御仕置御定書 2009年～2014年12月解説

1736～1744年に八代将軍徳川吉宗は法典の編纂を行い、先例を主な資料とし更に新しい取決めを含めました。その結果「広義 御仕置御定書」という法典が完成し、裁判や刑罰の基準となりました。96項が記されていますが、現行法に対比させると次の通りです。

1～16項 ：民事訴訟法および刑事訴訟法

17～31項、39～96項：刑法

32～38項 ：民法

⑥朝鮮人一件御用留帳 2015年1月～ 解説中

1745年に九代将軍徳川家重が就任したのを祝賀するため478名の朝鮮通信使が渡来したときの記録です。藤沢宿など街道に宿泊したときの状況が詳しく記されています。

（萩原 文巨）



古文書解説テキスト

「ミニだより」編集を担当して

「ミニだより」は会報よりやわらかい誌面で気軽に読んでいただこうと、会報発行の間をうめるため、平成元（1989）年6月に第1号が発行されました。今年7月で数えて86号になります。当初は2ヶ月毎の時もあったようですが、現在は3月、7月、11月の3ヶ月毎で年3回の発行です。前任の仲摩邦夫氏から引き継いだのは、平成21（2009）年3月発行の67号の編集からで、今年ではほぼ6年間担当したことになりますが、引き継ぎ当初はA3判1枚の横書きスタイルで1年間続けました。翌年3月の「ミニだより70号」を紐解いてみますと、服部会長（当時）から“創立25周年を機に誌面をリニューアルし、ニュース性のある情報の提供をしてはどうか”という提案があり、誌面をA4の両面見開き、2段組み中心の構成で読みやすくして、表紙のロゴを新しくすることにしました。

これにより、誌面として表紙には「総会」や「講演会」等の主要行事の報告、以降は各々の詳細な行事報告を増ページして載せ、行事に参加できなかった会員諸氏にもわかり易く報告し、参加した気分を味わって頂くようにしました。また、「新規入会者の紹介」と「会員投稿」の記事を合せた「会員のページ」を構成、最後のページには次号発行までの4か月間の行事を一覧表にしたカレンダーを作成し掲載しています。これによって皆さまには先のご予定を立てて頂くのにお役に立っています。毎号PCを駆使して何とか期日に間に合わせて発行しお届けしています。最後に会員の皆さまにお願いがあります。

誌面でも常にお問い合わせしていることですが、皆さまからの「投稿」をもっと頂きたいのです。会からの一方的なお知らせだけでなく、会の運営について皆さまからのご意見や情報など、何でも結構です。また、“書くのはどうも苦手で”という方には、こちらからお訪ねして文に纏めさせて頂きますので、ご一報頂ければ幸いです。お待ちしております。

ミニだよりも創刊から27年が過ぎました。会の活性化を図るためにもミニだよりを活用して頂き、皆さまの積極的なご支援・ご協力をお願いします。

（橋本 周也）

活動の記録

地名映画会の実績と展望（2006 年度以降）

§ はじめに

当地名の会にとっての地名映画会は、主要行事である地名探訪・地誌輪読会・古文書部会・特別企画などが休会する8月の盛夏期に補完する行事として企画されたと謂われています。当初は8月催行でしたが、会場提供の図書館側から8月の土日は学校夏休みを利用して独自行事に利用したいとの要請があり、平成15年度より9月催行となり現在に至っています。

2010 年度以降、地球温暖化の影響もあり、9月上・中旬に於ける日中気温が33～35℃と上昇しているためか出席総数が50～70名と低迷しています。

§ 作品の選定と今後の対策。

上映作品は所要時間2時間の中で概ね10～20分の小品を4～5本上映することを前提に、県立図書館、市教育委員会等の所蔵作品から、主として地域の歴史・地理・風俗に関する物を選定しておりました。しかしながら、下記の理由により選定可能映像作品が急速に減少している状況です。

(1) 県及び市において新規に作成される映像が極めて少ない。(2) 県立図書館所蔵のVHSテープの劣化が進み、ここ3年程はVHS映像作品の貸出業務が中止され、18ミリフィルムのみのお貸出のみとなっています。などの理由により過去に使用した映像の再利用も不可能となっています。

打開策としては、(1) 近隣自治体の図書館等を通じて借用するルートを開拓する。(2) 個人的に保管している映像を利用する。(3) 更に技術的に補う方法として、長尺のため利用不適切なVHSファイルをPC上でAD変換し長さを再編集した上でDVDを作成する。などが考えられます。すでに(2)、(3)については、2009 年度以降、部分的に採用し活用しております。

§ 近年の実績とアンケート調査結果の紹介

平成22,25,26 年度と会場において、上映作品に関する評価アンケートを行ってきました。そのごく一部26 年度(2014)を紹介しますと、(A:非常に良い B:良い C:どちらとも言えない)「江戸時代の朝鮮通信使」(18ミリ)は彩色が劣化して見難いにも拘わらず、時流に乗った内容が素晴らしく好評を得ました。

他の2作品の評価分布はごく平均的であるのに対し「・・・朝鮮通信使」は評価Aが突出して多く高評価を示しています。

§ 今後の課題

作品の確保が最も重要です。そもそも作成数量が1970,80年代をピークに激減していますので、提供先の自治体を幅広く求めることも必要です。また最近の情報に拠りますと、県としても旧原テープをAD変換してデジタルファイル化に動いている様子なので期待したいです。

また実施季節の問題ですが、この際2、3月に変更して動員数改善を図る事も検討課題になります。

(長谷川 隆)